

脳卒中と循環器病克服5か年計画 (2016年12月)

日本脳卒中学会* 日本循環器学会

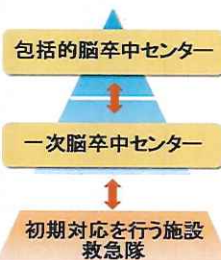
日本胸外科学会 日本血管外科学会 日本高血圧学会 日本小児循環器学会 日本心エコー学会 日本心臓血管インターベンション治療学会 日本心臓血管外科学会 日本心臓病学会 日本心臓リハビリテーション学会 日本心不全学会 日本成人先天性心疾患学会 日本動脈硬化学会 日本糖尿病学会 日本脳神経血管内治療学会* 日本脳神経外科学会* 日本脳卒中の外科学会* 日本不整脈心電学会 日本脈管学会 日本リハビリテーション医学会*

*Stakeholders of stroke systems of care

死亡率5%減へ数値目標 脳卒中・循環器病、5か年計画 関連学会が策定

朝日新聞
DIGITAL

2016年12月17日
9時34分



目標の実現に、「脳卒中・循環器病対策基本法」の法制化を求める活動も進める。

日本医師会 終末期医療 アドバンス・ケア・プランニング (ACP) から考える

2018.3.7

終末期医療 アドバンス・ケア・プランニング (ACP) から考える

ACP (Advance Care Planning) とは?

将来の望みと意思、最期の医療ケアについて、患者さんご自身、そのご家族や近い人、医師・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。患者さんご自身の価値観、希望に沿って、将来の医療ケアを具体的にすることを目標としています。

なぜACPのような工夫が必要なのですか?

- 患者さんが望む医療ケアについて、その意思を確認できなくなることが、いつ訪れるのか予測することは困難です。
- 一方、医療者側としても患者さんの望みある状態でケアすることは、患者さんの意思が尊重された医療ケアを提供することが望めます。
- 患者さんの意思を尊重し、その人にとって最善となることが決まれば医療ケアが実行することは、残された医療者にとっても、極めて重要な事柄です。
- 十分な話し合いを通じて話し合うことも期待されています。患者さんご自身の意思を尊重し、その意思を共有してケアすることが望めます。たとえば、高齢者施設に入居する方など、話し合いの機会をもちこたえられます。

ACPの留意点がありますか?

- ACPは、病状がこれからの生活に与える影響が大きい場合に、その時に、最期の医療の選択やケアの意思を明らかにし、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) に関する意思決定の作成も入ります。
- 法律はあくまでも患者さん本人です。
- 患者さんの意思は変化することも可能性がありますので、繰り返し話し合うことが望めます。
- 医療者側も話し合いの場から、患者さんの価値観を中心に、医師・ケアチーム一人的な意思、ソーシャルワーカー等の専門知識で、患者さんの意思に寄り添うことが望めます。
- その場で決まらなくても構いませんが、話し合いの内容は、その価値、文書とすることで残すことが望めます。
- ※また、話し合いのきっかけをつくり、話し合いのプロセスを支援することも望めます。



POLST が始まりつつある

人生の最終段階にある傷病者の意思に沿った 救急現場での心肺蘇生等のあり方に関する提言 (一般社団法人 日本臨床救急医学会, H29.3.31)

心肺蘇生等に関する医師の指示書 (例)

当該患者が心肺停止となった場合、患者 (あるいは代筆者) の自発的な意思に基づいて行われた「心肺蘇生等を受けない」決定を尊重し、心肺蘇生等を実施しないでください。指示にあたっては標準的な医療水準等を考慮し、患者 (代筆者) と多専門職の医療従事者間において十分な話し合いを行ったうえで、意思決定についての合意が形成されています。

患者氏名: _____ 生年月日: _____ 年 月 日
連絡先電話番号: _____
住所: _____ 県 _____ 市 _____ 町
病状の概要: (最末期の状態など)

医師署名欄: _____ 平成 _____ 年 月 日

POLST (Physician Orders for Life-sustaining Treatment)

公営社団法人日本脳卒中協会 共同事業 2018 ストップ!NO卒中プロジェクト エリア会議 in 神奈川

超高齢化時代。脳卒中医療も、地域医療構想、脳卒中センター認証、血管内治療ガイドラインなどのキーワードとともに大きく変わろうとしています。神奈川の脳卒中連携医療のよりよい未来地図とは.....?

【特別講演】 17:55~18:40

【座長】 北里大学医学部 神経内科学 主任教授 西山 和利 先生
【演者】 熊本市民病院 首席診療部長・神経内科部長 橋本 洋一郎 先生
「脳卒中と循環器病克服5か年計画、
—今後のわが国の脳卒中診療はどう変貌するか—」

【パネルディスカッション】 脳卒中の地域医療連携について 18:40~19:35

【座長】 横浜市立大学 神経内科学・脳卒中医学 教授 田中 章景 先生
聖マリアンナ医科大学 神経内科 教授 長谷川 泰弘 先生

【パネリスト】
たくち脳神経クリニック 院長 田口 博基 先生
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院 副院長 北村 佳久 先生
済生会横浜市東部病院 救命救急センター センター長 山崎 元靖 先生
西神奈川ヘルスケアクリニック 院長 赤羽 重樹 先生